

25 効果的な継続的支援を目指した肝臓病教室のアウトカム評価と今後の課題

植木 文¹⁾・阿部 弘子¹⁾・小山富士子¹⁾
 中野ともみ¹⁾・中山 陽子¹⁾
 長谷川江梨名¹⁾・野口 博人¹⁾
 石川 達²⁾・吉田 俊明²⁾・深澤 尚子³⁾
 鈴木 光幸⁴⁾・丸山 由華⁵⁾・廣澤 宏⁶⁾

済生会新潟第二病院看護部¹⁾
 同 消化器内科²⁾
 同 栄養課³⁾
 同 薬剤部⁴⁾
 同 事務部⁵⁾
 同 臨床工芸室⁶⁾

26 オキサリプラチンは門脈圧亢進症を惹起するか

小林 由夏・杉谷 想一・藤原 真一
 大関 康志・上野 亜矢・飯利 孝雄
 野本 実*

立川総合病院消化器内科
 新潟大学第三内科*

【はじめに】オキサリプラチン（以下 OHP）は、大腸がん化学療法の key drug の一つである。我々はこれまでに OHP 併用化学療法後に高頻度に脾腫が出現することや肝切除症例で組織を検討すると門脈の狭小化や閉塞が見られることを報告してきた。その後食道静脈瘤出現例、術後肝不全例を経験したため報告する。

【方法】当院での OHP 併用化学療法施行症例について、治療前後の脾腫の有無、食道静脈拡張の有無を検討した。OHP 併用治療後に肝切除を行った症例と、術後肝不全をきたした症例に関して、背景肝の組織を確認した。

【結果】2006年3月～2012年12月までに OHP を 340mg/m² 以上投与し、治療前後で腹部 CT の評価が行われた症例は 73 例、化学療法後の肝切除例は 21 例であった。splenic index（以下 SI）、1.2 以上 38 例、52.1%、SI 1.5 以上 15 例、20.5%であった。治療前脾臓体積の平均値は 196.32cm³、治療後脾臓体積の平均値は 243.96cm³

で、P 値は 0.0001 以下と脾臓は有意に増大していた。OHP 投与後に 1 回以上上部内視鏡を施行した症例は 42 例、57.5%であり、このうち 4 例に食道静脈拡張を認めた。1 例では RC-sign 陽性の静脈瘤を認めており、内視鏡的食道静脈瘤硬化療法が必要であった。静脈瘤の出現した症例の肝切除標本の病理では、NRH と呼べるほどのものではないが軽度の再生性変化が見られ、門脈の狭小化と閉塞を認めた。他の症例でも肝小葉の矮小化や類洞内のうっ血所見を認めた。術後肝不全をきたした症例は、既往歴に陳旧性心筋梗塞、うっ血性心不全があり、背景肝の中心静脈から zone 2, 3 にかけてうっ血が著明で類洞の拡張や肝細胞索の萎縮がみられた。

【考察】OHP 併用化学療法後に脾腫や食道静脈瘤をきたす症例が報告されており、とくに長期生存例に対して腹部エコーによる門脈圧計測や上部内視鏡の定期検査が必要である。心血管系の合併症を有する症例では、OHP による肝障害の病態が増悪している可能性がある。

【結語】OHP は門脈圧亢進症を惹起する。肝切除症例において、背景肝の類洞障害を検討することが長期経過観察に際して有用である。

27 門脈血栓症を呈した先天性プロテイン S 欠損症の 1 例

小林 雄司・三浦 努・星 隆洋
 高野 明人・嘉戸 慎一・山田 聡志
 柳 雅彦

長岡赤十字病院消化器内科

28 部分的脾動脈塞栓術同時併用肝動脈化学塞栓療法による肝予備能変動の検討

石川 達・窪田 智之・木村 成宏
 本田 博樹・堀米 亮子・岩永 明人
 関 慶一・本間 照・吉田 俊明

済生会新潟第二病院消化器内科